

日文系 EMI 課程的評價與學習態度 —透過 SCAT 分析學生的訪談敘述—

羅濟立

東吳大學日本語文學系教授

摘 要

本研究在日文系的「日本概論」課程中引入 EMI，並在課後進行半結構式訪談，使用 SCAT 進行分析。研究結果提取出所有學習者共有的 7 個構造概念：「對課程本質和目的的認識」、「對課程的焦慮」、「對課程的建議」、「對教師的評價」、「對課程的評價」、「來自外國學生的壓力和刺激」以及「自主學習和自發學習的重要性」。接著，嘗試對理論進行描述：學生雖然感受到理解英語文本需要時間，並且外國學生的語速對聽力理解構成挑戰，但他們認識到來自外國學生的刺激對學習動機有正面貢獻。同時，也確認學習者採用了適當的學習策略，並意識到自主和自我激勵學習的重要性。

關鍵詞：EMI 課程、SCAT、半結構式訪談、學習態度

日本語文学科の EMI 授業に対する評価と学習意識 －SCAT による学習者の語りの分析を通して－

羅 濟 立

東呉大学日本語文学科教授

要 旨

本研究では、日本語文学科の「日本概論」に EMI 授業を導入し、授業期間終了後に半構造化インタビューを行い、SCAT を用いて分析を行った。その結果、「授業の本質や目的への認識」、「授業への不安」、「授業へのアドバイス」、「教師の評価」、「授業の評価」、「外国人学生からのプレッシャーと刺激」、「自律・自発学習の重要性」の 7 つの学習者に共通する構成概念が抽出された。そして、理論記述を試みたところ、学習者は英文の理解に時間がかかると感じ、外国人学生が話すスピードの速さに聴解上の課題を感じる一方で、外国人学生からの刺激が学習のモチベーション向上に寄与していると認識している。また、適切な学習戦略を採用し、自律・自発学習の重要性に気づいたことも確認された。

キーワード：EMI 授業、SCAT、半構造化インタビュー、学習意識

Evaluations and Learning Attitudes of EMI Class: Through the Analysis of Narratives by Taiwanese Learners of Japanese Using SCAT

Luo, Ji-li

Professor, Department of Japanese Language and Culture,
Soochow University

Abstract

In this study, EMI was introduced to an "Introduction to Japan" course in the Department of Japanese Language and Culture. Semi-structured interviews were conducted post-course and analyzed using SCAT. Seven common constructs emerged: "class nature and purpose awareness," "class anxiety," "class advice," "teacher evaluation," "class evaluation," "pressure from foreign students," and "importance of autonomy in learning." The findings revealed that while learners found English texts challenging and struggled with the speed of foreign students' speech, the stimulation from these students motivated their learning. Additionally, learners recognized the importance of autonomous learning and adopted suitable strategies.

Keywords: EMI, SCAT, semi-structured interviews, learning attitudes

日本語文学科の EMI 授業に対する評価と学習意識 －SCAT による学習者の語りの分析を通して－

羅濟立

東呉大学日本語文学科教授

1. はじめに

2021 年、蔡英文総統は英語のソフトパワーを強化し、国の競争力を高めるために、「2030 年バイリンガル国家政策」という総合的な取り組みを発表した¹。バイリンガルの傘下で、教育部は学生の英語力を強化するために「The Program on Bilingual Education for Students in College (BEST)」を開始し、4 大学が重点大学に、25 大学 41 学部が重点学部を選定された。その目的は、国の主要産業で活躍するバイリンガルのプロフェッショナルを育成することである。このプログラムにおける大学教育の役割は非常に重要で、実施内容の中に、EMI (English as a medium of instruction、EMI と略す) が提供する単位数・コース数の増加が注目される。具体的に言えば、2030 年までに、バイリンガルのベンチマーク大学 6 校、ベンチマーク学部 30、2 年生の 50%以上が聞く、話す、読む、書くことに堪能であり、2 年生と修士課程の学生の 50%がその年に 50%以上の単位を EMI で取得しているという「50-50-50」の成果を達成すると明示されている。これに伴い、日本語教育でも EMI 授業が導入されている。

EMI は、オックスフォード大学教育学部の EMI 研究開発センターによって「英語を母国語としない国や地域で、英語を使って専門知識を教えること」(Dearden J 2015) と定義されており、専門知識に頼って英語を学ぶのではなく、専門知識を学ぶための媒体とし

¹ 「2030 雙語政策」『維基百科，自由的百科全書』

[https://zh.wikipedia.org/zh-tw/2030 雙語政策](https://zh.wikipedia.org/zh-tw/2030雙語政策)。2024 年 1 月 20 日検索。

て英語を使用することが EMI の核心であることを意味する。この EMI 教育は、現在、世界の非英語圏の大学において、世界的な大学の地位を獲得するための重要な指標の一つとして広く評価されている。

近年、EMI 授業について、マクロな教育政策から具体的な教育実践に至るまで、専門家や学識経験者は多くの洞察に満ちた視点を提示している。英語を母国語としない国では、大学教育が完全英語で行われることが一般的になってきており、台湾でもほとんどの学生が EMI 授業に異を唱えていない (Wen-Shuenn Wu 2006、Yeh-Zu Tzou 2014、鍾智林・羅美蘭 2017)。しかし、英語教育は完全に質を保証するものではない。例えば、口頭言語能力を向上させる必要があること (BROWN Dale 他 2021)、学生の全体的な英語力が EMI 授業に十分でないこと (BROWN Dale 他 2022)、学生の性別が EMI 授業の選択に影響する場合があること (鍾智林・羅美蘭 2017) が指摘されている。また、学習成果に影響を与える主な要因には、学生の英語力、予備知識、学習意欲、努力、さらには教師の指導基準やクラス内の外国人学生の存在などが挙げられる (孫偉 2018)。教員に関しては、教師がコースのデザインと実施を強化し、分野を超えて協力すること (Yi-Ping Huang 2012)、語学教師と専門教師の間で協力すること (Yi-Ping Huang 2014)、複数の教授法を適切に使用すること (周宛青 2018) によって、良い教育成果を達成し、EMI 授業の質を向上させるべきであることが指摘されている。

したがって、台湾において EMI 授業が戦略的な配慮のもとに大いに導入されている一方で、学生の学習プロセスを無視している可能性がある。実際、EMI 授業と学生の英語レベルの間には大きな隔たりが生じることが多いと指摘されている。しかしながら、EMI 授業のコースデザインや実施、学習成果に関する実証研究はまだ不十分である。そのため、専門的な授業の内容を出発点として、専門的な大学教師が学習者の視点を理解し、学生の学習を支援する方法

を深めることは有益である。欧米におけるバイリンガル教育研究に比べ、台湾、特に日本リテラシー分野においては、まだ研究が十分に行われていないようである。EMI 授業の実践者や研究者は、今こそ反省すべき時だといえる。

先行研究から、EMI 授業の可否や効果については賛否両論があり、その品質を完全に保証しているとは言い難いことがわかる。にもかかわらず、台湾では教育部からの資金援助がインセンティブとなり、大学は自然とこのプログラムに投資するようになる。筆者が勤めている A 大学では、103 年度の EMI 授業「日本文化専題」（3 年次の選択科目）に続いて、111 学年度から EMI 授業「日本概論」

（1 年次の選択科目）が開講されている。これにより、学生のバイリンガル能力を向上させ、外国人と英語で交流し、日本の言語や文化を広めることができるようにしたいと考えている。例えば、本学科の学生が日本人学生と交流をする場合、グループでのやり取りをする前に、彼らの英語でのプレゼンテーションを聞くことが多い。そのため、英語と日本語のバイリンガルコミュニケーションの機会は今後ますます増えていくであろう。しかし、現在のところ、台湾および海外の日本語文文学科における EMI 授業の現状と課題に関する研究はほとんど行われていないようである。日本語文文学科における EMI 授業はまだ探索的・開拓的な段階にあると言えるであろう。

以上のことを踏まえ、本稿では質的研究の手法を採用し、7 名の台湾人学習者に焦点を当て、その学習者から得られたデータを丁寧に分析することで、EMI 授業に対する評価と学習意識を深めることを試みる。具体的には、調査対象とした学習者が語ったものを基本データとし、SCAT (Steps for Coding and Theorization: 大谷 2008、2011) 分析を用いて、学習者が EMI 授業をどう受け止め、評価しているのか、そして EMI 授業実施によって学習者自身の学習意識がどのように変容したかを一つの事例として分析する。本稿の目的は、このような質的分析を通して、日本語教育における

EMI 授業のあり方を理解し、今後の教育支援に役立てることである。

2. 調査概要

2.1 EMI 授業の概要

まずは日本語文学科の EMI 授業の定義について簡略に述べる。

英語による教科指導は、様々な形で表現されている。例えば、ヨーロッパの多くの大学では、「内容と言語との統合学習」Content and Language Integrated Learning (CLIL)、あるいは「内容に基づいた指導」Content-based Instruction (CBI) と呼ばれている。最近では、EMI という言葉が採用されつつある。以前は、同様の授業に対して「バイリンガルコース」や「バイリンガル教育」という言葉も使われていた。EMI という用語の普及に伴い、両方の用語が統一して使われるようになり、バイリンガル教育は EMI であると主張する学者もいる。その違いは、バイリンガルが 2 つの言語に優先順位をつけないのに対し、EMI は全英語プログラムであり、英語の学習と教科の内容の習得に等しく重点を置いている点にある。また、EMI は EFL (外国語としての英語) プログラムとは異なり、知識の伝達を重視し、それに伴って言語の達成度も向上させる。EMI は、学習の難易度は上がるが、主観には学習に対する興味や意欲をより一般的レベルにまで高め、より良い学習成果のための基礎を築き上げるものである。そのため、EMI は英語を母国語としない世界中の大学から高い評価を得ており、教育・研究への取り組みも年々増加している。本研究では、日本語文学科の EMI 授業を、「英語と日本関連の専門的な内容を同時に習得することに重点を置き、日本関連の知識の伝達とそれに伴う英語力の向上に重点を置いたオールイングリッシュプログラム」と定義する。

A 大学の日本語文学科では、EMI 授業「日本概論」は週 1 回 2 コマ連続 (1 コマ 50 分) で 2022 年 9 月から毎学年 (1 学年は 36 週) 開設されている。「日本概論」は次の理由で EMI 授業として選ば

れた。まず、この授業は日本の歴史や文化に関する知識を提供し、日本とアジア各国との関係をテーマ別に探求する重要な基礎選択科目であり、内容ベースの言語学習（CLIL）が核となっている。そして、この授業は EMI 授業に対する学生の理解や考えを実験的に参考にし、学生の言語能力、モチベーション、期待値を踏まえて、将来的には他の分野の EMI 授業にも重要な参考となる。また、教員は学生からのフィードバックを基に、授業内容の最適化を図り、授業のペースや難易度を調整することができる。

2.2 調査協力者と調査方法

本研究における調査対象者は、A 大学の日本語文学科で EMI 授業を履修した台湾人日本語学習者 11 名のうち、インタビューに応じてくれた 7 名である。以下の表 1 は調査対象者の詳細である。

表 1 調査対象者のプロフィール

調査対象者	性別	日本語能力 (JLPT)	英語能力 (TOEIC)	録音時間
A	女	N5	825	24:13
B	女	無し	690	21:02
C	男	N5	550	22:31
D	男	無し	無し	26:51
E	女	N4	750	19:41
F	男	無し	795	24:54
G	男	N1	990	20:02

本研究では、調査対象者に対して半構造化面接法によるインタビュー調査を実施した。調査対象者ができるべく自由に豊富な表現で語れること、筆者の調査対象者に対する理解を深めることを考慮して、調査対象者と筆者の母語である中国語を使用した。インタビューはすべて IC レコーダーに録音し、発話データは調査対象者ごとに逐

語録を日本語に翻訳し、作成した。調査対象者は匿名化し個人情報
が特定できない状態とした。インタビューは授業期間終了後の
2023 年 6 月～7 月にそれぞれの学習者に 1 回 20 分程度で対面かオ
ンライン通話システムを使用し実施した。なお、分析に際して、筆
者の判断で必要に応じ、メールなどで学習者に対して追加の質問を
する場合もあった。

2.3 分析方法

インタビューで得られた全 7 名分の音声データをテキスト化し、
SCAT による質的分析を行った。SCAT は大谷（2008、2011）によ
って開発された 4 ステップコーディングによる質的データ分析手法
であり、「比較的小規模の質的データの分析にも有効である（大谷
2008:155）」ことから、本分析に採用した。SCAT は、マトリクス
の中にセグメント化したデータを記述し、それぞれにコードを付し
ていくコーディングと、テーマや構成概念を紡いでストーリーライ
ンを作成する過程をもつ分析手法である。質的研究では、解釈が恣
意的なものになりかねないとの懸念がつきまとうが、この点に関し、
SCAT は、その分析過程を表に残すことによって、こうした危険性
を最小限にとどめるように考慮されている。コーディングは、
〈1〉テキストの中の注目すべき語句を抽出、〈2〉それを言い換
えるためのデータ外の語句を記入、〈3〉それを説明するための語
句を記入、〈4〉そこから浮き上がるテーマ・構成概念の記入、
〈5〉疑問・課題の記入という手続きをふんだ（表 2 参照）。スト
ーリーラインは、「データに記述されている出来事に潜在する意味
や意義を、主に〈4〉に記述したテーマを紡ぎ合わせて書き表した
もの」（大谷 2008：32）と定義されているように、〈4〉のテー
マ・構成概念を紡いで記述した。なお、コーディングの目的は
〈4〉にあり、〈1〉から〈5〉は、そのうちのどれかがなくてもよ
いとされている（大谷 2008）。

表 2 SCAT による分析プロセスの例 (A 学生)

テキスト	<1>テキスト中の注目すべき語句	<2>テキスト中の語句の言い換え	<3>左を説明するテキスト外の概念	<4>テーマ・構成概念	<5>疑問・課題
プラスだと思います。リスニング力、脳内変換という感覚はあまりないので、もっと勉強しようと思えば、英単語を増やすなりなんなりすればいいし、これから勉強したくないという気持ちにはなりません。	プラスだ。リスニング力。脳内変換感覚ない。英単語を増やす。勉強したくない気持ちはない。	外国人学生はポジティブな刺激となり、リスニング力を上げたいため、語彙を増やしたりして、学び続けたいと思う。	外国人学生はポジティブな刺激となり、自ら学ぶ意欲を高めてくれる。	英語力向上へのポジティブなアプローチとモチベーション維持	外国人学生同士が交流することが、学習環境全体に具体的にどのような影響をもたらすと考えられるのか？

3. 結果と考察

7名の学習者に EMI 授業実施後にインタビュー調査を行い、そこで得られたデータを SCAT によって分析した結果、EMI 授業に対する評価と学習意識に関して、関連・類似するものをまとめてカテゴリーライズし、カテゴリー名をつけた。その結果、学習者に共通する構成概念として、「授業の本質や目的への認識」、「授業への不安」、「自律・自発学習の重要性」、「授業へのアドバイス」、「教師の評価」、「外国人学生からのプレッシャーと刺激」、「授

業の評価」の 7 つのカテゴリーに分類された²。以下に、授業や教師に対する評価に関する構成概念と、学習意識の変容に関する構成概念に分けて報告する。

3.1 授業や教師に対する評価に関する構成概念

学習者の授業や教師に対する評価に関する構成概念としては、「授業の本質や目的への認識」、「授業への不安」、「授業へのアドバイス」、「授業の評価」、「教師の評価」の 5 つが抽出された。

まず、「授業の本質や目的への認識」には、「英語スキル向上と同時に新たな知識の獲得を目指す動機」、「興味深い日本概論と英語スキル向上の同時追求」、「日本概論への興味と英語能力向上の補助的価値」、「口頭表現の機会が少ない中での英語学習への動機」、「複数の外国語学習と文化理解の両立における学習の調整」、「日本語文学科における英語継続学習と広範な内容への取り組み」、「EMI 授業における文化や歴史へのアプローチの重要性」というテーマ・構成概念が含まれている。そのテキストを例として上げると、表 3 のようになる。

表 3 構成概念：授業の本質や目的への認識

発話者	テキスト	テーマ・構成概念
A	~知識を得るだけでなく、英語力も向上させることが重要だと考えています。英語の授業を免除されているので、この授業を通じて英語で意見を述べたり考えたりすることで、以前は知らな	英語スキル向上と同時に新たな知識の獲得を目指す動機

² 各カテゴリーの後に、それがインタビュー 7 人中何人から得られたものであるのかを（ ）内に示すと、次のようになる。「授業の本質や目的への認識」（7 人）、「授業への不安」（7 人）、「自律・自発学習の重要性」（7 人）、「授業へのアドバイス」（7 人）、「教師の評価」（4 人）、「外国人学生からのプレッシャーと刺激」（7 人）、「授業の評価」（6 人）、「同級生へのマイナス評価」（1 人）、「単なる単位獲得の履修動機」（2 人）、「過去の学習経験」（1 人）。本研究では、半数、つまり 4 人以上のカテゴリーを共通する構成概念として認められるため、「同級生へのマイナス評価」（1 人）、「単なる単位獲得の履修動機」（2 人）、「過去の学習経験」（1 人）から対象外とする。

	かった専門知識や背景なども得ることができると思います。	
B	「日本概論」に興味があり、同時に英語を練習したいです。	興味深い「日本概論」と英語スキル向上の同時追求
C	なぜなら、この科目の名前が「日本概論」だからです。私は日本に関する専門知識について知りたいと思います。英語の能力向上は、むしろ補助的で付加価値があると思います。	日本概論への興味と英語能力向上の補助的価値
D	～英語の口頭表現の機会が少ないので、これが私を惹きつける理由だと思います。	口頭表現の機会が少ない中での英語学習への動機
E	～私は外国語選択科目でドイツ語を選んでいるため、英語の練習時間を確保したいと思います。それに加えて、日本についてより深く理解したいという自分の意向があります。	複数の外国語学習と文化理解の両立における学習の調整
F	やはり日本語文学科では英語に触れる機会が実際にはかなり少ない～自分の英語を継続的に保つために少なくともある水準に維持したいと思います。～ただ、先生が話す内容は少し難しいと感じることがあるが、集中して聞くと、先生が何を伝えたいのかが理解できます。この授業は多岐にわたるトピックを扱っているので、非常に広範です。	日本語文学科における英語継続学習と難解な内容への取り組み
G	私が主に注力しているのは、やはり「日本概論」の部分です。なぜなら、当校の1年次のカリキュラムには実際には日本文化に関する内容がほとんどなく、1年次の大部分は言語能力の向上に注力しています。発音や文法、または会話のようなものに焦点を当てて勉強しています。しかし、日本独自の文化、習慣、歴史などに触れることは少ないのです。このEMI授業は、通常の授業では得られない視点を提供してくれると思います。	EMI授業における文化や歴史へのアプローチの重要性

表3に示したとおりに、多くの学習者はEMI授業の「内容と言語の統合学習」の利点を強調しており、「知識の取得と英語力の向

上が同時に行われる」と感じている。特に、「日本概論」のような科目は、日本文化や歴史について学びながら英語の練習もできるため、新たな視点が提供してくれるとの意見が示された。

第 2 に、「授業への不安」には、「外国人学生とのコミュニケーションにおける語速と自信の課題」、「ディスカッションにおける英語表現の課題」、「専門用語や高度な表現への挑戦」、「口語能力向上の挑戦と学習のペースに対する挫折感」、「新しい科目や言語への適応に伴う学習の課題」、「外国人学生とのコミュニケーションにおける理解の課題」、「参考文献の読解と自由討論におけるコミュニケーションの課題」というテーマ・構成概念が含まれており、学習者全員のインタビューから抽出された。そのテキストを例として上げると、表 4 のようになる。

表 4 構成概念：授業への不安

発話者	テキスト	テーマ・構成概念
A	困難なのは、この学期に外国人学生がいるからです。先生は私たちに彼らと話し合うように指示し、皆が発表した後に彼らにその発表内容について話すようにしています。彼らは意見を述べる際に話すのが非常に速いので、まず彼らが何を言っているのかを聞いて、それを吸収した後で自分の意見を考えると、他の人はもう話が進んでしまっていて、自分の反応が遅いのではないかと感じます。自分の英語能力はまだそこまで良くないのではないかと思います。	外国人学生とのコミュニケーションにおける語速と自信の課題
B	授業ではディスカッションがあります。そして、私は正式な英語、つまり専門用語が含まれるものに適切な英語であまり話すことができません。自分の考えを英語で表現するのがあまり得意ではありません。	ディスカッションにおける英語表現の課題
C	最大の困難は、他の授業とは異なって、知らないことを外国語の能力で学ばなければならないことです。これにより、頭の中の考えがある程度変換される必要があります。そして、先生が授業中に日本に関する専門用語や、高校で初めて学ぶような深い語彙に触れることがあります。こ	専門用語や高度な表現への挑戦

	これらの語彙は理解しきれず、授業中に先生が言っていることやパワポに表示されている情報を調べる必要があります。これらの困難は主に英語能力の問題だと思います。	
D	自分の口語能力がまだ上達しておらず、ペースについていけないことが、少し挫折感を覚える要因です。	口語能力向上の挑戦と学習のペースに対する挫折感
E	他の授業と比べて緩やかでない可能性があるのは、おそらく私の問題だと思います。英語への理解不足や、授業の内容そのものに慣れていないことが挙げられます。そのため、他の科目と比較して適応しきれていないと感じることもあるが、全体的には良いと思います。	新しい科目や言語への適応に伴う学習の課題
F	後期は外国人学生が多いです。自分のリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングはかなり OK だと思います。少なくとも外国人学生が何を言っているかは理解できます。ただし、彼らが英語を話すとき、なまりまたは他の発音の問題があるからでしょうか、彼らが何を言っているか確信が持てない時があり、それを考え直さなければならないことがあります。	外国人学生とのコミュニケーションにおける理解の課題
G	授業は自由討論があり、その前には先生が提供した PDF ファイルの参考文献を読む必要があります。このような勉強は、一般の科目と比較して準備には少し時間がかかります。そして、クラスメイトとの討論の際、時折、お互いに意味がどういうものかを理解しにくく、何を言いたいのかが明確でないことがいくつかの困難を引き起こすことがあります。	参考文献の読解と自由討論におけるコミュニケーションの課題

表 4 からは、EMI 授業では多くの学生がコミュニケーションやディスカッションでの速度や専門用語の理解に不安を抱えている。英語の口語表現や専門知識の習得が困難で、クラスメイトの理解力も課題とされている。一部の学生は、成績のために発言が難しいと感じることもある。しかし、英語のノートの復習や、tronclass という教育プラットフォームでの事前学習など、学ぶ姿勢や向上心を持

って取り組む学生もいる。EMI 授業は成長の機会として、多様性と挑戦を通じて学びや自己成長を促していることがうかがえた。

第 3 に、「授業の評価」には、「授業のアプローチとトピックの多様性」、「英語の読解力向上と論文理解の進展」、「英語と中国語での授業比較と選択の優先順位」、「英語の読解力向上と新しい興味の発見」、「EMI 授業の利点と欠点」、「EMI 授業における教育スタイルの変化と新たな知識の獲得」というテーマ・構成概念が含まれており、学習者 7 名のうち 6 名のインタビューから抽出された。そのテキストを例として上げると、表 5 のようになる。

表 5 構成概念：授業の評価

発話者	テキスト	テーマ・構成概念
A	前期の授業は、日本の過去から現在までの発展を取り上げていました。純粋な歴史の授業ではなく、歴史教科書にも必ずしも載っていない内容が含まれます。具体的には、発展過程、社会の変化、または文化に焦点を当てることがあります。後期の授業では、教師が私たちに興味を持っているトピックがあるかどうか尋ね、そのため、今学期取り上げていたのは日本に関連するもので、具体的にはゲームの発展やそれに関連する社会問題でした。実際、これらの内容は非常に興味深いと思います。私はもともとそれらを見るのが好きで、日本に関連するニュースなどを見ることに似ている。そのため、多方面の情報を得ることができます。歴史が主軸であるが、それに関連する文化や社会の要素も取り上げられるからです。	授業のアプローチとトピックの多様性
B	英語の文章を読み進めることができるようになりました。今回の期末レポートでも、先生は参考になる論文を添付してくれました。それにより、私は大まかに内容を理解することができるようになりました。元々は本当に理解できなかったのですが。	英語の読解力向上と論文理解の進展
C	英語での授業が悪いわけではないが、難易度が高すぎると感じます。英語での授業自体はまずまずで、その経験は悪くないです。ただ、私は	英語と中国語での授業比較と選択の優先順位

	日本の専門知識に関しては、中国語での授業の方が良いと思います。そのため、もし本当に選択肢があるなら、どちらを選ぶかと言われれば、私は中国語での授業を選ぶでしょう。	
E	比較的辛抱強く、多くのテキストや長文を読むことができるようになりました。実は、英語を読むのは苦手で、基本的な語彙力が高くないため、読むのが怖いと感じていました。しかし、期末レポートを提出する必要がありました。そのとき、先生が提供した参考文献を自分でもかなり楽しんで読んでいることに気づき、自分でも驚きました。論文を読むことが好きになるなんて、実は私にとっては新しい発見でした。だから、これは私にとって大きな変化をもたらしてくれたことだと思います。	英語の読解力向上と新しい興味の発見
F	EMI 授業の利点と欠点についてですね。利点はもちろん、聴く、話す、読むといった三つの能力が大いに向上することでしょう。中国語での授業が比較的簡単であるため、EMI 授業では、授業内容を理解するために考える必要があります。すべての単語が理解できるわけではないからです。欠点としては、多くの人がつまらないと感じるかもしれません。つまり、理解できないことがあり、それが原因で学習を諦めることがあるかもしれません。～	EMI 授業の利点と欠点
G	後期の授業では、主に文章を読んで、それを自分でまとめて発表を行うことが多かったです。しかし、前期の授業は、先生が講義を行う形式が主でした。その中で、第二次世界大戦前後の歴史や人文など、当時の歴史的背景や現象に関する内容も取り上げられました。これについては、私たちに以前に触れていなかった知識をたくさん提供してくれました。	EMI 授業における教育スタイルの変化と新たな知識の獲得

表 5 によると、前期授業では日本の発展と歴史、社会、文化に焦点を当て、後期では学生の興味に基づくトピック、例えばゲームの発展などが取り上げられた。EMI 授業では、多くの学生が英文を理解し、期末レポートで参考文献を使って理解を深めることができたが、一部の学生は「英語での授業が難しく、専門知識は中国語の

方が理解しやすい」と感じていた。EMI の利点として、英語の聴解、会話、読解力の向上が挙げられ、多くの学生が英文献の読解を好むようになった。欠点としては、理解が困難な部分があり、ハードルが高いとの意見もあった。

第 4 に、「教師の評価」には、「教師の教育スタイルと学生の評価」、「教師の言語配慮と学生の理解促進」、「パワポデザインの改善に関する提案」、「パワポの改善に関する提案」というテーマ・構成概念が含まれており、学習者 7 名のうち 4 名のインタビューから抽出された。そのテキストを例として上げると、表 6 のようになる。

表 6 構成概念：教師の評価

発話者	テキスト	テーマ・構成概念
A	EMI 授業は特に難しく感じないが、英語が苦手な人にとっては大変かもしれません。先生は普段ほとんど英語で話しているんです。でも、正直言って、先生の説明は理解しにくいと感じたことはありません。前期はテキストを読むんですが、先生が内容を整理してから、重要なポイントや議論したいことを教えてくれるので、理解しやすいと思います。	教師の教育スタイルと学生の評価
D	先生は理解しやすい言葉を使うように配慮しています。実際、それほど難しくはありません。皆が話すことに意欲があれば、誰もが理解できるように話されています。完全に理解できないことはないが、基礎が必要だと思います。	教師の言語配慮と学生の理解促進
E	おそらくこれは先生の問題ではなく、先生のパワポのデザインがちょっと長く読みにくく、一段落の文章が貼り付けられていることが原因かもしれません。そして、文字がカラーグラデーションであるため、読みにくくなっています。私はそれが文字自体に関連しているのか、あるいは言語の配置に関連しているのかわかりませんが、何かしらの関連があるだろうと思います。	パワポデザインの改善に関する提案

F	欠点としては、先生のパワーポは理解がちょっと難しいと感じることがあります。パワーポの修正が必要かもしれません。	パワーポの改善に関する提案
---	---	---------------

上述のように、教師に対する評価は肯定的で、「英語の内容が理解しやすく、テキストの要点を整理して教え、授業の雰囲気を良好にする」と評されている。さらに、「異なる程度に応じた言葉を使い、基礎が必要だが意欲があれば理解できる」とのポジティブなフィードバックもある。一方で、パワーポイントのデザインが読みにくいとの指摘もあるが、全体として、教師の授業方法は学習者から高く評価されており、学生の思考や討論を奨励する良い環境を提供していることがうかがえた。

最後に、「授業へのアドバイス」には、「教師の協力による英語力向上の方法」、「授業計画を見る重要性」、「台湾人学生のクラス参加条件と授業の難易度」、「一年次に日本学の授業の開設」、「個人作業とグループワークの好み」、「政治と公民に関する基本的な理解と英語スキルの必要性」、「英語能力と表現力向上のための授業の価値」というテーマ・構成概念が含まれており、学習者全員のインタビューから抽出された。そのテキストを例として上げると、表7のようになる。

表7 構成概念：授業へのアドバイス

発話者	テキスト	テーマ・構成概念
A	もし可能であれば、学生に向けて、先生が英語力を向上させるのに適していると思うものをいくつかおすすめていただけるとうれしいです。	教師の協力による英語力向上の方法
B	～最初に授業の登録者が満員であったことを覚えています。だから、私のアドバイスとして、後ろのかっこ内の EMI 授業にしっかり目を通し、授業計画の概要を十分に理解することが重要だと思います。	授業計画を見る重要性

C	<p>もし今後、台湾人と外国人が同時に授業を受ける形式になるなら、外国人と台湾人の交流時間がもう少し長くなることを希望します。後輩に対しては、大学入試での英語の成績を考えると、PR75 以上であると授業がストレスなく受けられると提案します。もし英語の能力が PR50 以下であれば、このクラスは履修しない方が良いでしょう。なぜなら、英語の基礎がよくない場合、授業の理解に難しいと思います。それはまじめさの問題ではなく、少なくとも PR50 以上の能力が必要です。そうではないと、授業が理解できない可能性があります。前期の初めに、一緒に授業を受けた友達がいました。最初の授業の後、授業内容が全く理解できないと言いました。彼はおそらく 2 回か 3 回授業を受けた後に授業を辞めたようです。</p>	台湾人学生のクラス参加条件と授業の難易度
D	<p>やはりこのような授業は概論であり、本質的には歴史や文化の背景に関する知識が必要だと思います。なぜなら、一年生の場合、言語の基礎能力の向上が重視されており、日本の歴史、地理、または文化に関連する授業が比較的少ないからです。ですので、もしできれば、文化や歴史、地理に関連する授業をもう少し増やしていただくと良いでしょう。例えば、二年生には歴史、地理の授業があります。文化に関する背景知識があれば、論文を読む際に必要に応じて検索を行う手間を省くことができます。その余った時間を使ってテキストの伝えたい内容をより理解する手助けになるとと思います。</p>	一年次に日本学の授業の開設
E	<p>グループ分けをするのは構いませんが、私自身は個人作業が好きです。私は自分で作業するのが好きです。なぜなら、他人の目を気にせずに比較的自由に自分のペースでできるからです。</p>	個人作業とグループワークの好み
F	<p>後輩に対しては、政治や公民に関する基本的な理解があると、この科目が適しているでしょう。そうでない場合、授業が進んで内容が深くなった時、学者の議論が出てくると、理解が難しくなると思います。また、英語の基本的な能力も必要です。聞く、話す、読む、書くという 4 つのスキルには一定の経験が必要で、そうでな</p>	政治と公民に関する基本的な理解と英語スキルの必要性

	いと後期に外国人学生がクラスに入る場合、コミュニケーションがかなりのハードルになるでしょう。台湾人学生は外国人学生に比べて約1対3の割合です。台湾の学生は口頭能力が弱いと思います。弱すぎて、コミュニケーションが難しいことがあります。私たち自身も何を言っているのかわからないことがあります。なお、話すことに意欲を持ち、積極的に発表することが必要です。ただ座っているだけではだめです。また、発表の内容は難しい語彙である必要はないが、少なくともみんなが理解できるような表現にする必要があります。	
G	英語能力が必要です。また、自分の表現能力に自信がない学生にとって、この授業を選ぶことで自分の勇気を高める手段が得られると思います。そして、多くの人の前で公開プレゼンテーションの練習を通じて、外国語を使って自分の思いをしっかりと表現する方法を学ぶことができます。これにより、自分の意図を効果的に伝えるスキルが向上します。	英語能力と表現力向上のための授業の価値

表7からわかるように、学習者は教師に英語力向上のリソース提供や、外国人学生との交流機会の増加、日本関連のコース提供を望んでいる。一部の学習者はグループ作業を避けたいとも言っている。後輩へのアドバイスとして、英語能力がよくない場合は慎重にコースを選ぶこと、文化や歴史の知識を学ぶことが推奨されている。特に自信のない学生にとって、EMI授業は自己表現や公開プレゼンテーションの練習の場として、自信をつける良い機会となり、学習者は授業の効果を実感し、徐々にその価値を肯定的に評価している。

3.2 学習意識に関する構成概念

学習意識やその変化において、構成概念として「外国人学生からのプレッシャーと刺激³」と「自律・自発学習の重要性」の2つが抽出された。

³ 「外国人学生」はアメリカ、フランス、ドイツなど英語圏の学生がほとんどである。

まず、「外国人学生からのプレッシャーと刺激」には、「聴解力と学習意欲の向上」、「外国人学生参加への期待」、「外国人学生との競争と協力」、「外国人学生の影響と英語の使用による学習意識の変化」、「外国人学生とのディスカッションの不安」、「外国人学生の異なる価値観による視野の拡大」、「EMI 授業が台湾人学生に及ぼす影響とその価値」というテーマ・構成概念が含まれており、学習者全員のインタビューから抽出された。そのテキストを例として上げると、表 8 のようになる。

表 8 構成概念：外国人学生からのプレッシャーと刺激

発話者	テキスト	テーマ・構成概念
A	～ポジティブに思うことが多いです。つまり、自分の聴解力や、脳内での翻訳全体に関する感覚がまだそれほど良くないと思います。もっと学びたいと思っており、英語の語彙量や何かを増やすことができれば、それによって学習意欲をなくすことはありません。	聴解力と学習意欲の向上
B	前期は外国人学生がほとんどいなかったもので、皆が素直に英語のテキストを見てノートを取ったりしました。しかし、今学期は外国人学生が多いため、グループ分けや英語の使用が避けられないため、英語のコミュニケーション能力が向上するでしょう。	外国人学生参加への期待
C	私たちよりも西洋人は必ず英語が上手でしょう。それは当然のことですが、だからと言ってプレゼンテーションの際に手を抜いてはいけないと私は考えています。彼らがスピーチを終えた後、スピーチの内容を参考にし、自分の元々の内容を修正して差を少なくしました。彼らとあまり差がつかないように注意しなければなりません。また、台湾出身だからといって、外国人学生が私たちに対して寛容であるべきだと思わせてはいけません。自分のレベルをしっかりと示す必要があります。	外国人学生との競争と協力
D	後期には多くの外国人学生がこの科目を選択しました。それは私たちにとってかなり大きな影響を与えています。なぜなら、前期は台湾の学	外国人学生の影響と英語の使用

	<p>生だけで、普段英語を使う環境にいないため、急に全体が英語になると緊張するからです。ですので、授業中に発言することがそれほど積極的ではありませんでした。したがって、時折先生もかなり難儀していました。そこで、後期に外国人学生が加わると、彼らは普段から英語を使っているため、授業中に自在に発表でき、私たちにとっては苦労が減り、誰かが先頭を切ってくれることがあります。これによって、私たちは少しはプレッシャーを感じなくてもよくなります。そして、最善を尽くして話すことができます。なぜなら、前期は誰も先陣を切ることができなかったため、話題を広げるのが難しかったです。これにより、私たちはより大胆になり、考えを表現しようとする機会が増えます。また、外国人の多くが異なる価値観、考え方を持っているため、それも私たちが彼らの国について理解を深める一助になっています。</p>	<p>による学習意識の変化</p>
E	<p>～今学期は多くの外国人学生が加わったため、ディスカッションが増えました。私自身が少し内向的で、外国人とコミュニケーションをとるのが少し怖いし、あまり慣れていない英語を使うのも難しいと思います。</p>	<p>外国人学生とのディスカッションの不安</p>
F	<p>～私はこのトピックに取り組み、その発表が終わるとクラス全体でのディスカッションの時間が始まりました。そして、外国人学生がこのトピックに興味を持っているとは思いませんでした。フランスの原子力発電がかなり高い比率を占めている一方、ドイツの原子力発電の割合は基本的にほとんどなくなりました。なぜなら、ドイツは風力発電や水力発電などを採用しているからです。そして、彼らは授業中に小さなディベートのようなものを行い、それぞれが自分の意見を発表しました。そして、なぜ原子力がこれまでに占めているのか、なぜフランス人にとっては不可欠であり、ドイツ人にとっては拒絶されているのか、改善すべき点があるのではないかと考えさせられました。彼らの影響を受けて初めて、原子力は主観的なものであり、必ずしも良いわけではなく、悪いことである可能性もあると考えるようになりました。彼らの異</p>	<p>外国人学生の異なる価値観による視野の拡大</p>

	なる意見を聞くことで、新しい視点を得られ、考えることが増えました。	
G	私は台湾人学生は中国語の授業を選ぶ傾向があると考えています。しかし、後期には外国人学生が増え、その数が本国籍の学生よりも多いことを考慮すると、EMI 授業はまだ存在する価値があると思います。ただし、台湾人学生のクラス参加者が少なくなる可能性があります。	EMI 授業が台湾人学生に及ぼす影響とその価値

表 8 に示されているように、多くの学習者は、外国人学生の増加により英語コミュニケーションの機会が増え、学びの幅が広がったと評価している。異なる国や価値観を持つ学生との交流を通じて、新しい視点を得ることができ、自分の意見表現の機会も増えたと感じている。外国人学生とのディスカッションは学習進歩の原動力となり、異文化間コミュニケーションの重要性を実感させたが、EMI 授業の価値を再評価する必要があると考える学習者もいる。特に、英語力がなければクラス参加が減少するという懸念があるため、EMI 授業の導入には不安を感じる声もあった。

次に、「自律・自発学習の重要性」には、「留学生との交流が英語学習モチベーション向上に与える影響」、「一般英会話と学術的英語の違いと認識」、「英語の積極的な学習習慣の養成」、「論文の難しさとニュースメディアを活用した読解力向上」、「積極的に予習し、留学生と交流する」、「国際ニュースを見て、グローバルな視点を養う」、「読書会と共同学習の体験」というテーマ・構成概念が含まれており、学習者全員のインタビューから抽出された。そのテキストを例として上げると、表 9 のようになる。

表 9 構成概念：自律・自発学習の重要性

発話者	テキスト	テーマ・構成概念
A	私は以前、高校時代に外国人学生と一緒に授業を受けた経験があり、また外国人教師からも授業を受けたことがあります。その経験から、再び彼らと会話したりすることで、英語を学ぶモ	外国人学生との交流が英語学習モチベーション

	<p>チベーションを高めることができると思います。そして、高校と比較して、普段の生活ではあまり英語を使わないこともあり、もう一度努力してみることができるだろうと思います。なぜなら、英語の検定試験でより高い点数を取りたいからです。そのため、学校の英語の授業を受けるか、または自己学習することも考えています。</p>	<p>向上に与える影響</p>
B	<p>私は学校のランゲージ・コーナーに参加しています。英語の部に参加しているが、自分の英会話能力が高いと気付きました。ただし、専門用語や学術的な英語になると、苦手な部分があります。会話能力と発表能力が異なることを認識しました。</p>	<p>一般英会話と学術的英語の違いと認識</p>
C	<p>この授業を履修しない場合、通常は休日や放課後に自発的に英語に触れることはないと思います。私たちの学科では、普段は英語に積極的に触れる機会がありません。しかし、この授業を受講することで、先生が何を教えているのかを理解するには、積極的に英語のレベルを向上させる必要があります。英語のレベルが向上すると、先生の授業内容を理解することができます。したがって、私にとってこの授業を受講する最大の変化は、積極的に英語に触れる習慣を身につけたことです。</p>	<p>英語の積極的な学習習慣の養成</p>
D	<p>なぜなら、先生が選んだのは論文であり、普段手軽に手に入るものではありません。だから私はできるだけニュースをダウンロードしようとしました。例えば、BBCやCNNのようなニュースメディアのアプリを使用し、ニュースを見ながら、事件展開のプロセスを理解することで、自分の読解能力を少し向上させることができると考えています。そして、語彙量も非常に重要です。文献を読む際に役立てると良いです。</p>	<p>論文の難しさとニュースメディアを活用した読解力向上</p>
E	<p>テキストの場合はまあまあ大丈夫です。木曜日の午後は授業がないので、それを読むために比較的多くの時間を取ることができます。前期の場合は通学の時間を利用してできるだけ読み終わるように努力しました。大体対処できると思います。ただし、討論の部分は少し難しいが、先生がグループを分けてくれたので、自分の考</p>	<p>積極的に予習し、外国人学生と交流する</p>

	えを積極的に述べるようにします。ただ外国人学生とコミュニケーションを取ると、最初は少し緊張することがあり、その後で自分が話し始めることがあります。	
F	少なくともBBCやCNNなどのグローバルなニュースを見て、世界で何が起きているかを知ることができます。これは専門的に研究しているわけではないが、少なくとも先生が話すトピックは理解できます。また、他の意見を考えたり、先生にフィードバックしたりすることもできます。	国際ニュースを見て、グローバルな視点を養う
G	～前期には、クラスメイトと一緒に勉強会を結成しました。テキストがあり、それぞれが小さなセクションを担当し、翻訳して要点をまとめることでお互いに学び合うことができました。	読書会と共同学習の体験

表9に示したように、学習者は、高校時代に留学生や教師から学ぶ経験があり、そのことが現在の英語学習のモチベーションにつながっていると述べている。普段あまり英語を使わないため、再び学習に努力する意欲が湧いている。また、学術的な英語には苦手意識があるが、EMI授業を通じて積極的に英語に触れ、内容を理解するための努力をしている。さらに、学習者は、新聞アプリを使用して読解能力を向上させたり、クラスメイトと協力して勉強会を開くなど、EMI授業の不安や困難を学習のプラスと捉え、自発的な学習の重要性を認識している。

3.3 学習者インタビューデータを統合したストーリーラインと理論記述

以下の表10は、7名の日本語学習者のインタビュー調査で抽出された構成概念を基に作成したストーリーライン、理論記述、さらに追及すべき点・課題である。

表 10 本調査におけるストーリーライン、理論記述、さらに追及すべき点・課題

ストーリーライン（分析で生成したテーマ・構成概念は【 】で示す。）
<p>ほとんどの学習者がこの授業を履修した動機は、【英語スキル向上と同時に新たな知識の獲得を目指す】ことであり、EMI の教育理念に一致している。英語での問題解答や思考だけでなく、英文テキストから専門知識を学び取り、さまざまな国際的視点や日本に関する多面的な情報に深く触れることができる。EMI 授業において【専門用語や高度な表現への挑戦】や【参考文献の読解と自由討論におけるコミュニケーションの課題】など、様々な不安や困難に直面しているが、【積極的に予習し、外国人学生と交流】をしたり、【国際ニュースを見て、グローバルな視点を養う】ことによって、自律学習の重要性を認識し、授業を諦めないように努力している。この授業の大きな特徴の一つは、【外国人学生との競争と協力】である。【外国人学生とのディスカッションの不安】は学習動機を高めただけでなく、様々な方法で英語能力を自主的に強化する意欲ともなっているため、【聴解力と学習意欲の向上】や【外国人学生の影響と英語の使用による学習意識の変化】が起きるようになった。また、【教師の言語配慮と学生の理解促進】から見て、教師の教育方法は多くの学習者から高い評価を受けている。学習者は、この授業を取ることを考えている後輩に対して、【授業計画を見る重要性】と【政治と公民に関する基本的な理解と英語スキルの必要性】を認識し、【英語能力と表現力向上のための授業の価値】を理解することが望ましいと考えている。</p>
理論記述
<p>(1) 学習者は EMI 課程に興味を持ち、英語での専門知識を増やす目標を持っている。多くは英語学習の重要性を理解し、途中で諦めないよう努力しているが、一部は課程理念を誤解し退学している。</p> <p>(2) 学生は外国人学生の速いスピーキングにプレッシャーを感じつつも、英語の文献理解や学術表現に取り組んでおり、授業への適応が難しいものの、全体的には評価が高く、積極的に発言する努力をしている。</p> <p>(3) EMI 授業を通じて得た知識を友達と共有し、視野を広げ、英語スキルを向上させている。教師と学生間の交流も良好で、授業評価は高い。</p> <p>(4) 教師は授業内容をわかりやすく説明し、学生の思考を促進する一方で、パワポの専門用語の配置に改善が必要である。</p> <p>(5) 授業への提案として、外国人学生との交流促進、英語スキルの向上、日本学のコース拡充、授業理念の宣伝、簡単な表現の使用と自信を持つことなどが挙げられる。学生には積極的な発言、専門的興味の持続、予習と復習が推奨されている。</p> <p>(6) 外国人学生との交流は、英語コミュニケーションスキルを向上させるが、英語力の差による課題も存在する。異文化理解の良い刺激があるが、テキストの読解力向上が難しいとされている。</p>

<p>(7) 学習者は外国人教師との会話や英検で英語力を向上させ、学術英語へのアプローチとして言語交換を行っている。また、新聞の閲覧や語彙量の増加、テキストの事前準備、友達との勉強会など自主的な学習活動に取り組んでいる。</p> <p>(8) 教師は授業内容を効果的に教え、英語力向上のための資源を提供している。興味と意欲があれば、この授業は強く推奨される。</p>
<p style="text-align: center;">さらに追及すべき点・課題</p> <p>(1) 学習者が具体的な歴史への興味や他の選択肢よりも EMI 授業を好む理由を詳しく知る必要がある。特に、歴史的側面の魅力や EMI 授業の好ましい点について詳細が求められる。</p> <p>(2) 外国人学生との授業で感じる言語のプレッシャーや学術的表現の苦労について、具体的な例やケーススタディを通じて理解を深める。読解力やプレゼンテーションに困難を持つ学生へのサポートや改善策も調査が必要である。</p> <p>(3) 教師の英語が理解しやすい一方で、パワーポイントの改善が求められており、具体的な改善案や学生の反応を知る必要がある。思考を促進し積極的な雰囲気を作り出す方法の具体例も求められている。</p> <p>(4) 外国人学生との交流、英語スキルの向上、日本学のコース拡充などの提案がどの程度実施されているか、その効果や学習者の反応を詳細に分析することが重要である。</p> <p>(5) 外国人学生と台湾人学生間の英語力の差があり、コミュニケーションの難しさが生じている。これに対する具体的な改善提案や取り組みを詳細に知ることが求められる。</p>

上記のように、学習者個々の回答から抽出した共通する 7 つの構成概念を再文脈化し、ストーリーラインを作成することで、7 名に共通する EMI 授業に対する評価と学習意識の変容についての説明ができる。全体として、EMI 授業は外国人学生とのディスカッションや専門用語への挑戦により、不安や困難に直面しているが、授業を受ける中で英語能力と表現力向上だけでなく、異なる視点からの学びと専門知識の獲得に寄与しているといった EMI 授業の良さを感じ、学習ストラテジーにおいての気づきにつながっていると窺えよう。

また、理論記述を行った結果、今回のインタビューデータから、学習者が EMI 授業を受けることにより、どう評価するかという点において、表 10 理論記述に示す 8 点が挙げられた。学習者は EMI

授業において、専門知識獲得と英語スキル向上を目指し、外国人学生のプレッシャーにも屈せず進んでいる。外国人学生の語速や学術的な表現に苦しみつつも、慎重な発言で高い評価を得ている。また、EMI 課程の影響で学習者は視野を広げ、英語スキル向上を感じつつ、一部の誤解もあるものの、重要性を理解し続けている。なお、教師の指導は良好であり、提案としては交流促進や英語スキル向上の取り組みがある。外国人学生との交流はストレスも伴うが、肯定的な刺激や自主的な学習の主体性がある。EMI 授業は長期的に見れば、学習者にとって自律性が高められる効果的なコースであると言える。

しかしながら、表 10 の「さらに追及すべき点・課題」で示したとおり、上記 5 点については今回のインタビューからは窺えず、今後の課題として残った。

4. まとめと今後の課題

本稿では、日本語文学科の EMI 授業に参加した 7 人の学習者に対する評価と、その学習者の学習意識に関するインタビュー調査を行い、SCAT によって分析した。その結果、「授業の本質や目的への認識」、「授業への不安」、「授業へのアドバイス」、「教師の評価」、「授業の評価」、「外国人学生からのプレッシャーと刺激」、「自律・自発学習の重要性」の 7 つの学習者に共通する構成概念が抽出された。そして、理論記述を試みたところ、学習者は英文の理解に時間がかかると感じ、外国人学生の話すスピードに聴解上の課題を感じつつも、外国人学生からの刺激が学習のモチベーション向上に寄与していると認識していることが明らかになった。また、自律・自発学習の重要性に気づき、学習観に変化が生じていることも確認された。今後は、担当教師や他の外国人学習者に対するインタビューを通じて、教師がこの授業にどのような教育観を持っているのか、学習者の特性によって EMI 授業がどのように受け取

られるかを検証し、日本語教育においてより効果的な EMI 授業モデルの確立を目指したいと考えている。

【付記】本稿は、2023 年 10 月 7 日に開催された「蔡茂豊教授と台湾日本語教育及び東呉大学外国語文学院創立 40 周年記念国際シンポジウム」における口頭発表の原稿に加筆修正を施したものである。なお、本調査を進めるにあたり、7 名の学生には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

参考文献

- 周宛青（2018）〈高等教育全英語課堂教學個案研究〉《教學實踐與創新》1 卷 1 期、pp.155-191
- 孫偉（2018）《高校本科全英語課程評價：以上海四所「雙一流」大學為例》上海：華東師範大學教育學部高等教育研究所碩士論文
- 鍾智林、羅美蘭（2017）〈英語授課指標暨多年期英語運輸課程教學評量之探討〉《運輸學刊》29 卷 3 期、pp.233-253
- 大谷尚（2008）「4 ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案—着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き—」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学）』54、pp.27-44
- 大谷尚（2011）「SCAT: Steps for Coding and Theorization：明示的手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法」『感性工学』10、pp.155-160
- 舘岡洋子編（2015）『日本語教育のための質的研究入門 学習・教師・教室をいかに描くか』東京：ココ出版
- 古川智樹・手塚まゆ子（2016）「日本語教育における反転授業実践—上級学習者対象の文法教育において—」『日本語教育』164、pp.126-141

- BROWN Dale, OYABU Kana, YAGUCHI Michiko, MURRAY Lewis.2021. Students' perspectives on the challenges of English Medium Instruction (EMI) courses: Seeking insights to better focus English for Academic Purposes (EAP) Courses. 外国語教育フォーラム : 金沢大学外国語教育論集 15, pp.21-44.
- BROWN Dale, YAGUCHI Michiko, MURRAY Lewis, OYABU Kana.2022.The Relationship between English Proficiency and Student Experiences in EMI Courses. 外国語教育フォーラム : 金沢大学外国語教育論集 = Forum of Language Instructors 16, pp.17-35.
- Dearden J.2015. English as a medium of instruction - a growing global phenomenon. DOI:10.13140/RG.2.2.12079.94888
- Wen-Shuenn Wu.2006.Students' Attitudes toward EMI: Using Chung Hua University as an Example. 教育暨外國語文學報, 4 期, pp.67-84.
- Yeh-Zu Tzou .2014.Modifying Language Use and Teaching Strategy in All-English Language Classes: Perceptions of Students from Two Mixed-Major Freshman English Classes in Taiwan. 課程與教學, 17 卷 3 期, pp.177-206.
- Yi-Ping Huang .2012.Design and Implementation of English-Medium Courses in Higher Education in Taiwan: A Qualitative Case Study 英語教學期刊, 36 卷 1 期,pp.1-51.
- Yi-Ping Huang.2014.Teaching Content via English: A Qualitative Case Study of Taiwanese University Instructors' Instruction . 外國語文研究, 20 期, pp.27-62.